



市民登場

No.771

養鶏農家・「ふじよだ養鶏」運営

余田 慎太郎さん

◆よだ しんたろう 新たな枚方の名産品を生み出そうと、尊延寺地区で養鶏場「ふじよだ養鶏」を営む。今秋、第一弾となる青い卵をインターネット限定で販売予定。SNSで活動を発信中。西禁野1丁目在住。43歳。

自分の作った青い卵が
枚方の名産品になるよう走り続けます

市東部・尊延寺地区の養鶏場に毎朝5時には足を運び、鶏の世話や鶏舎の増築、害獣対策などの環境整備に汗を流す。水も電気も通っていない状態から約3年を費やし、現在は四つ目の鶏舎を建設中だ。ケージではなく地面に鶏を放つ平飼いと呼ばれる飼育法にこだわり、計2000羽が各鶏舎内を駆け回る。「鶏らしく生きられる環境ですトレスなく育つと良い卵を産むんですよ。そんなおいしい卵を枚方の名産品にしたいんです」。「枚方の名産品ってなに？」。取り組みのきっかけになった言葉だ。生まれも育ちも枚方で、まちの良さを広めるため淀川でのいかだレースなどイベントを次々企画するほどの地元愛にあふれた行動派で「名産品が思いつかなかったのです、自分でつくろうと思って動き出しました」

鶏卵を選んだのは身近でありながら差別化ができるからだ。日常食である鶏卵は、国内で流通している鶏種に偏りがある。「珍しい鶏種を枚方で育てることとで付加価値がつくのではないかと考えた。養鶏の経験はなかったが、土地探しに奔走しながら新規就農支援を受け、全国から卵を取り寄せた。数えきれないほど食べ比べ、たどり着いたのがアローカナという鶏種だ。ストレスに弱く産卵率は低いが、高い栄養価を持ち淡い青緑色の殻の卵を産むことが特徴で「味の良さに見た目のインパクトなど、これだと思いました」。土地も整備用の重機も地元農家の協力で借りることができ「たくさん助けてもらえたこととで一つずつ実現できましたね」



「長尾の秋」

今月号の表紙写真は長尾家具町在住の花木学さん（75歳）が令和5年10月に長尾荒坂で撮影。「秋の散歩道。見慣れたいつもの風景ですが、紅葉とすすきのコントラストが鮮やかに広がっていて、思わず撮影しました。」



自慢の写真・イラストが表紙に!?

枚方の風景などをテーマにした写真・イラストを大募集。▶応募 メールまたは市ホームページの専用フォームに住所・氏名(ペンネーム希望の場合はペンネームも)・年齢・電話番号・メールアドレス、作品の題名・説明を書いて作品データを添付し広報プロモーション課(☎kouhou@city.hirakata.osaka.jp)へ。詳細は市ホームページ参照。

※応募作品は市公式フェイスブックやインスタグラムで公開します。



専用フォームはこちら